

令和6年度

赤羽根の里だより

茅ヶ崎市立赤羽根中学校 学校便り

令和6年11月14日(木)

校長 高橋 励

Dear Student(*^_^*)&保護者の皆様へ
ねんめ
40年目のリニューアル!

Dear Student(*^_^*)&保護者の皆様へ
「しるもの」ではなく……



この写真、「……体育館のステージがどうしたの?」という声が聞こえてきそうですが、実は、先日、ステージの横断幕と緞帳がリニューアルされました。これまで卒業式や入学式などを行うときに、老朽化してほつれやほころびがあるのを繕いながら準備していましたが、今年度の3年生の卒業式は、装いも新たな壇上で卒業証書を受け取ってもらえることになり、とてもうれしいです。何十年かのちにこの横断幕と緞帳が老朽化して交換される日まで、大事に扱ってほしいと思います。

今年度は、他にも教室の改修や空調の設置など、赤中生の学校生活が安全で豊かになるように手を加えていただいています。そして、そのための工事や作業をしてくださる方たちがいます。今も、困いで廊下が狭くなったり工事の音が聞こえてきたりしていますが、とても気配りをしながら作業をしてくださっています。空調工事のため12月いっぱいまで体育館は使えませんが、作業して下さっている方々に感謝しながら待っていてくださいね。

合唱祭も終わり急に季節が進み、校長室にも足元から寒さが忍び寄るようになりました。日の入りも11月に入り、随分と早くなりました。部活動の最終下校は17時となっていますがあと30分くらい早めたいほどです。

先日、「最終下校に間に合うように帰ろうね」と声をかけたところ「見逃してございーい」という声が返ってきて「?」。どうやら、その人にとっては最終下校時刻は「自分をしるもの」だと受け止められているようです。でも、最終下校時刻は、暗い道を帰るあなたの安全を考えて決められているもの。いくら地域の方が気を配ってくださっても、暗がりに忍び寄る悪意からあなたを守ることは容易ではありませんからね。

そういえば、今月7日に出席した「学校・警察連絡協議会」という会で「県の条例では午後1時から午前4時までには青少年を外出させてはいけない、となっていますが、塾のあとなどそれより前の時間におしゃべりしている子どもに帰宅を促す上手い言い方はないでしょうか……」という話題が出て「?」と思いました。聞けば、「私が許可していますから」と言う親もいるとか……。夜は大人であっても危険な時間。まだ守られる立場の子どもであれば「気をつけて早く帰りなさい」と声をかけることは愛情だと思うのです。社会のルールも学校の約束も、本来「しるもの」ではなく「まもるもの」であるはず。

降りかかる火の粉と 降り注ぐ愛情を
けて間違わずに来たとは言えない

以前紹介したフレーズです。あなたは自分に向けられた愛情をきちんと受け止められていますか(*^_^*)